

淑徳大学

# アーカイブズ・ニュース

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

第 10 号 平成 27 年 (2015) 1 月 15 日発行



## — 第 10 回龍澤祭の宣伝隊 (昭和 51 年 11 月) —

第 10 回龍澤祭は昭和 51 年 (1976) 11 月 20 日～23 日に開催された。テーマは「火から炎へ」。20 日は前夜祭で、学生たちは龍澤祭の宣伝のために「宣伝隊」を組織し、山車を担ぎ、提灯をもって大学周辺地域を練り歩いた。この宣伝隊は第 4 回龍澤祭 (昭和 44 年・1969) で最初に組織され、昭和 40～50 年代の龍澤祭の呼び物となっていた。

## 一期生の頃の学び

川眞田 喜代子  
(昭和40年入学)

丸館の建物（現淑水記念館）、料理学校と称した木造校舎の建物からスタートした私たち一期生は、60名という人数でそのスタートを切った。今泰山木の木があるところに、学生の下駄箱があり、昇降口として使用していた。私の肩にも満たない細い泰山木が今や太い大木になっている。

思えば随分と長い年月が経過したのだが、その時の学びは鮮明に覚えている。当時を思い起こし、幾つか学生生活の学びの一端を紹介したいと思う。

### ◎当時のカリキュラムと講義内容

社会福祉の単科大学としてのカリキュラムは試行錯誤の上で編成されたのだろう。当時の手書きの時間割表がある。一コマが100分である。一日1限から4限までの展開。時間割通り全て履修した。当時の教授たちは大分高齢の方が多かったが、その道を極めた著名な方が多く沢山のことが学べた。厚生省にいらした福山先生はハッピーマウンテンというあだ名で学生から慕われ、「厚かましく生きる処にいた」という自己紹介はユニークで、社会福祉概論は面白かった。ドイツ語は歯医者さんの増田先生。女子寮の舎監もやり、ドイツ語で星の王子様を皆で訳した。

中でも地学の千坂先生はいつもせかせかして、気仙沼が大好きで、時間にはルーズで授業は笑いが絶えなかった。地学の実習は房総半島に出向き、関東ローム層を熱心に学習した。

一日校外学習のような時は他の講義は即休講になった。今では考えられない！

一期生にとって忘れられない先生は篠田先生という、前武道大学の学長になられた先生だ。若い時の先生に体育を教わった。かわいらしいプール（テニスコート当たりにあった）での水泳指導、校庭の草ぬき、コンクリートのローラーを転がしての運動場造り、学生生活の過ごし方、スキー教室など奥の深い体育であった。豊かな人格形成上に大きな影響を与えてくれた方だ。

そして、今でも中村藤太郎会という会があるくらいに学生たちに慕われていたのが中村藤太郎先生だ。グループワークを教わった。非行少年更正に尽力し、保護司の経験談は面白かった。60人の一期生に微妙な気持ちのずれが生じ、二分化されそうになった雰囲気を感じて、山中湖での宿泊研修を実施してくれ皆の気持ちをつまみとめ、仲間意識と連帯感を強固なものにしてくれた。深夜に及ぶ語り合いは感動的だった。この時に福祉の道を志す同志を真剣に意識した。

沢山の講義はどれも気を抜かず、学生たちは先生の一言一句聞きもらさず書き留めた。必死に書き留めるので使用したノートは誰もが一講座に2冊は要した。今のようなコピーなんて存在しなかったから誰もが速記者のようだった。

試験の時は皆丸館の中をぐるぐる回り、書き留めたお宝のノートを必死に暗記した。全ての試験が論述式であった。

### ◎インクルーシブ教育の走り？

当時の仲間たちはとてもユニークな集団であった。聴覚障害者1名、脳性麻痺がアテトーゼ型と痙直型の2名、手や下肢の切断者2名、体幹障害者1名が共に学んだ。共生社会そのものであった。自然に皆助け合いながら学生生活を送った。

私は腎臓病で退院して間もない頃であったため、疲れないようにと通学生の友人たちが気を使ってくれ、

教科書などの重い荷物はいつも持ってくれた。

この写真は大学1年の秋、木更津青年の家に宿泊見学実習に行った時のものである。鹿野山に向かう山道を手ぶらで颯爽と楽しそうに歩いているのが私である。リュックやコートまで友人たちが持ってくれている。痙直タイプの脳性まひの仲間は、男子学生たちが交代で背負っていた。

皆自然に当たり前のように助け合い家族のような絆ができた。



### ◎実学の充実

良信先生の想いである実学を重視したカリキュラムは、今でも貴重な体験をさせてもらったと思う。この実学で得た貴重な経験や学んだ知識をどう役立てよう、どう発展させよう、と必死でみな考えたものである。

市内の児童相談所から始まり、院内小学校の「ことばの教室」も行った。この教室の先生が大熊喜代松先生で、特殊教育（現特別支援教育）の言語教育分野で第一人者となり、千葉県内の「ことばの教室」を普及させた人である。この見学が後教員になった私には大きな影響を与えた。ここにある写真は見学し終えた後、教室で昼食をとらせてもらった写真である。後ろのほうに長谷川匡俊理事長が写っている。私たちの引率に同行し学生たちの兄貴的存在でもあった。



また、ドイツ語の増田先生に重症心身障害児施設「秋津療育園」に連れて行ってもらった。いわゆる、寝たきりの子と出会ったのがこの時であった。重症心身障害の状態でも人生を生き、生活している人たちのことを知ったのもこの時であった。この体験が重度重複障害児教育に生きがいを見出した私の教員生活の原点である。

その他、沢山の所に行った。浜金谷からフェリーで神奈川県に移動して、エリザベスサンダースホームや知的障害者の施設見学をした。そして宿泊場所がお寺だったので、夜はお墓を散歩しての肝試しをして童心に帰って遊んだ。皆との連帯感はますます強まった。

また単位化された指定の実習も充実しており、教員希望であった学生にも施設実習ⅠとⅡが課せられており、私は、Ⅰで渋谷区内の社会福祉事務所で対人援助の実務経験をさせてもらった。ケースワーカーさんについて生活保護家庭訪問、在宅の障害者の方への訪問は実に勉強になった。また施設実習Ⅱは、神奈川県にある国府実習学校という少年の更正施設で1か月泊まり込み実習をした。けんかの仲裁をしてパイプいすで頭を殴られた事、父子草という映画鑑賞に子供たちと沢山の涙を流したこと、ミカン狩りの最中に子どもたちに脱走されたこと、字が全く読めない3年生の男の子を1か月で読めるようにしたこと等今でもはっきりと当時のよみがえってくる。それ程若い時の体験は体にしみこみ、計り知れない知識となり将来に生かすものとなるのだ。非行少年たちとの起居を通して子どもたちの心は絶対に素直で善人で愛すべき存在であることを学んだ。子どもを信じる。何があっても子は信じる。そのことを教わった。

いずれにしても、これらの実学は大きな影響をわたしに与えたので、実学を具体化した進路は養護学校

教員の道につながった。この経験があったからこそ、障害のある子どもたちと共にいきる実践が今でも実施できていると思う。

保護者と共に子どもたちのことを考え、狭義の教育にとどまらず生きる力を互いにはぐくみ、地域で生きていく支援ができる活力と実践力はこの実学経験からきている。福祉マインドを持った教員にしてくれた当時の不完全ではあるが、学生たちを思っただけのカリキュラムに大感謝である。

## ◎部活動

自分たちで「児童文化研究部」を立ち上げた。当時は部も同好会もなく一期生がすべてを立ち上げた。私は指人形や着ぐるみを作り日本全国を歩き回り、子どもたちに良い文化財を提供したかった。志を共にする仲間は多数いたが、お金も、場所も、道具も技術もなかった。

そこで、女性週刊誌に投稿してミシンや布の提供を願い出たら、全国から沢山の布や材料、ミシンも5台も届けられた。この経験は私たちに大いなる人の繋がりやささしさを実感させるもので、その後の活動に拍車をかけることになった。「全国に応援してくれる人がいる！」この一言で部員が一丸となれた。

全国公演とはいかなかったものの、千葉県内の小学校、栃木県のへき地校、神奈川県施設、肢体不自由児協会での恒例公演、大学祭では200人以上の子どもたちで賑わった。

当時の部活動は、「真の人間社会を創る」「生活の底辺にあえぐ人を支える人材」「社会福祉の仕事の重要性」等どれもが社会を自らの手で上げる勢いがあった。

ちなみに龍澤祭のスローガンが【若き感覚の勝利！】。真剣だったあの頃の情熱は今でも一期生の心にはある。参考までに部の名前を挙げる。

盲聾教育研究会、東洋哲学研究部、セツルメント部、心身障害者研究会、新聞部、青少年問題研究会、文芸部、吟道部、レコード・コンサート部、どれもが当時の社会の課題から生まれた部だ。若者の人生いかに生きるかの真剣さが伝わってくる。

しかし真面目な面ばかりではない。プールサイドでのダンスパーティー、女子ばかりの淑徳短大との交流パーティー、校庭でのフォークダンス等も企画して全員で楽しんだ。

講義以外は大学に来ないといった学生はいなかった。この部活動を充実させることを通して、自主自立の精神、開拓魂が培われたと思う。学生会を作り大学生活の自主を尊び、板橋区前野町にある良信先生の御自宅に部活室棟の建設を頼みに行ったこともあった。その結果、白亜の部活室棟が完成したが、とても狭く小さかった。でも非常に嬉しかった。従って部室内はもちろん通路、階段、周辺の草ぬき、トイレ掃除まで自分たちの手で実施し建物の管理をした。

この経験はどんな仕事もいとわず、一生懸命全員のためにすることの意義を身をもって学べた実学であった。

## ◎主体的な学びの共有

最後に学生たちのことについて述べる。昭和40年代は高度経済成長期の後半期にあたる時代であった。しかし淑徳大学で学ぶ学生は学費を自身で稼ぎ出さなくてはならない人もいた。牛乳配達、新聞配達、フナシヨクパンの深夜勤務、船橋海岸の埋め立て人夫をしていた。体調を崩す仲間がいたら交替して、朝の牛乳配達や新聞配達を友達同士で手分けして行い助け合った。地方の実家から仕送りがあれば食べ物を大量に買い、ひもじい思いをしてインスタント・ラーメンしか食べていない学生と分けあった。南門の脇にあった大巖寺会館といった私設学生寮では日々その光景が繰り返されていた。

家族にも匹敵する助け合いが他人同士で行われていた。そこには小さな共生社会が成り立っていた。



以上のように草創期の淑徳大学では、自ら学び、自ら自己開発して学生たちは精一杯「今」を生きた。南門にあるタブの木はその当時の我々の青春を50年以上見続けてきた木である。今の学生たちに、このタブの木はなにを見ているのだろう……。

そして、その前を毎日行き来するかつての学生だった私に何を問いかけているのだろうか……。

(淑徳大学総合福祉学部教授)

## 淑徳大学創立50周年記念シリーズ企画2

### 淑徳大学アーカイブズ平成26年度特別展

#### 「鶉の森の記憶—大巖寺周辺地域の明治・大正・昭和—」開催

淑徳大学アーカイブズでは、第48回龍澤祭にあわせ平成26年(2014)11月2日(日)よりアーカイブズ展示室1において、淑徳大学創立50周年記念シリーズ企画第2弾、平成26年度特別展「鶉の森の記憶—大巖寺周辺地域の明治・大正・昭和—」を開催しています。

本展示は、淑徳大学が所在する大巖寺周辺地域の明治から昭和にいたる時代の変化を、写真や物資料を通して振り返ろうとするものです。そこには、この地域の在りし日の風景とともに、この地域に根を張り、時代に揺さぶられながらも逞しく生きてきた人々の確かな姿を見ることができます。そして淑徳大学も、まさにこのような地域の歴史を受け継ぎながら、50年の歳月とともに過ごしてきたのです。

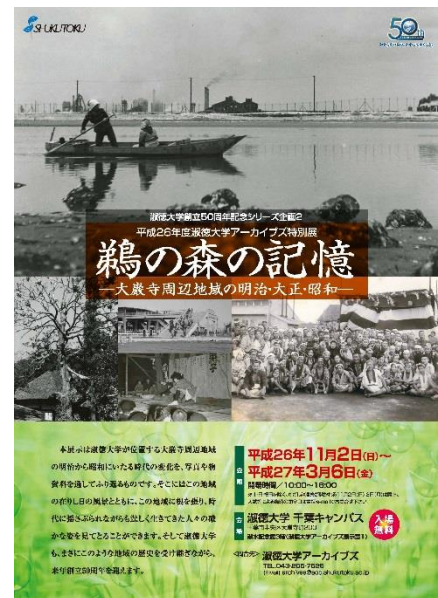
展示の構成と内容は次の通りです。

#### 「第1章 「御一新」と戦争の時代」 慶応4年(1868)正

月3日に勃発した「戊辰戦争」に勝利した明治新政府は、「富国強兵」をスローガンに天皇中心の中央集権国家を建設していきました。本章では、そのような明治新政府の施策がこの地域に及ぼした影響について取り上げています。それは、全国統一的な戸籍の作成事務にあたる「戸長」や、「地租改正」事業を担当する「地券取調掛」の任命にみられる中央集権化の動きや、西洋馬車からヒントを得て考案されたという人力車など、「文明開化」政策の浸透にも見ることができます。また、「大区小区制」(明治5年・1872)から「市制・町村制」(明治22年・1889)にいたる町村の分合がもたらした地域の混乱を示す資料や、明治27年(1894)の飢饉に際しての町税の減免に関する申請書、国会開設による衆議院議員選挙の投票所入場券なども展示しています。

「富国強兵」のスローガンのもと、西洋列強に迫いつくことをめざしていた明治政府は、朝鮮半島をめぐって明治27年(1894)に日清戦争を引き起こし、「戦争の時代」へと突入していきました。「徴兵」の対象は徐々に拡大され、地域の多くの若者が軍隊に徴集・召集されるとともに、地域も「銃後」として国内で兵士を支援する体制に組み込まれ、戦病死者に対しては町が盛大な葬儀を主催しました。本章ではこれら戦争に関する資料も取り上げています。

「第2章 大巖寺の近代」 龍澤山大巖寺は江戸時代幕府から100石の朱印地を拝領していました。



この朱印地は「生実郷」と呼ばれ大巖寺が領主として支配していましたが、明治新政府は明治4年（1871）正月5日にいわゆる「社寺領上知令」を布告し、基本的に現在境内地や墓地などを除くほとんどの社寺領を「上知」すなわち新政府のもとに収公させました。これにより大巖寺は収入の多くを失うこととなり、寺の運営に大きな困難をきたすこととなりました。かつての檀林としての隆盛はすでに過去のものとなり、大巖寺は「鶉の森」の中にひっそりと佇む古刹として近代を迎えたのです。



しかし、そのような大巖寺の歴史と由緒は、「鶉の森」の名とともに「名所」として次第に知名度を上げ、絵葉書なども作られるようになりました。「鶉の森」とは、数多くの鶉が大巖寺の森に巣をつくって棲息していたことから名付けられたもので、海で捕まえた魚をくわえて巣に戻ってきた鶉がその魚を落としてしまうため、「鶉の森」では魚は海で獲るのではなく、空から降ってくるとして「東京湾の魚を居ながら捕へてゐる村」と雑誌で紹介されたこともありました。本章では、こういった大巖寺の近代を示す資料を展示しています

「第3章 追憶の風景」 大巖寺周辺の地域は現在ではマンションなどが建ち並ぶ住宅地ですが、かつては純農村地帯でした。1960年代の高度経済成長期を通して大きな環境や景観の変化とともにその生活も大きく変わり、もはや昔日の風景を偲ぶことさえ難しくなっていました。本章では、在りし日の大巖寺周辺地域の風景を紹介しています。

「第4章 地域に生きる―白旗地区の戦後―」 蘇我町では第二次世界大戦中の昭和17年（1942）に臨海部を埋め立てて、戦闘機の機体やエンジンを製作する日立航空機の工場が建設されました。現白旗地区にはそこで働く人々の住宅が建ち並び、多くの人の生活が営まれていました。戦後、旧日立航空機の社宅などには戦災者や引揚者が入居し混乱の時代を迎えましたが、昭和26年（1951）に川崎製鉄千葉製鉄所が開業、さらに昭和32年（1957）には東京電力火力発電所が稼働を始めるなど、大巖寺周辺地域は戦中から戦後にかけて大きな変化が起りました。本章ではこのような白旗地区に生活していた人びとの姿を、商店や祭礼の様子、子どもたちを通してたどるとともに、また地域医療の担い手として設立された今井町診療所についても取り上げています。

「第5章 学び舎にて」 明治5年（1872）8月、明治新政府は国民教育の重要性をふまえ、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事」を期して学制を發布しました。蘇我地区では明治6年（1873）3月に今井村の福正寺に小学校が開校されましたが、学区が広く通学に不便なため5月に曾我野・今井・寒川の3校に分離されました。明治25年（1892）には蘇我町立大森尋常小学校が設置され、明治41年（1908）には曾我野・今井・赤井の3校を合併して蘇我尋常小学校が成立しました。戦後人口の増加によって昭和26年（1951）千葉市立蘇我第二小学校を大森町に分立させ、ここに大森小学校が誕生することになります。一方生浜地区では明治6年2月に北生実村の重俊院を仮校舎として格物小学校が開校され、8月には浜野村と村田村が共同で浜野村建応坊に研思小学校を開校、翌7年11月には塩田小学校が個人宅を仮校舎として開校しました。中学校については、生浜中学校が昭和22年（1947）5月に開校し、蘇我中学校が昭和27年（1952）に末広中学校から分離、日興工業株式会社の施設を利用して開校しました。本章では、これら蘇我小学校・生浜小学校・大森小学校・蘇我中学校に残されている写真類から、地域の学校の足跡をたどっています。

会 期：平成 26 年 11 月 2 日～平成 27 年 3 月 6 日  
会 場：淑徳大学淑水記念館 3 階 淑徳大学アーカイブズ展示室 1  
開催時間：10 時～16 時  
問合せ先：淑徳大学アーカイブズ  
TEL 043 (265) 7526  
e-mail [archives@soc.shukutoku.ac.jp](mailto:archives@soc.shukutoku.ac.jp)

---

## 千葉第 2 キャンパスに「学祖コーナー」開設

平成 26 年 (2014) 7 月 31 日 (木)、千葉第 2 キャンパスに「学祖コーナー」を開設しました。当アーカイブズでは、これまで平成 25 年 (2013) 9 月に埼玉キャンパスに、平成 26 年 (2014) 3 月に東京キャンパスにそれぞれ学祖コーナーを開設しましたが、これで本学のすべてのキャンパスに学祖・長谷川良信に関する展示コーナーができたこととなります。

展示内容は、学祖の生涯を関連写真を添えて簡潔に紹介したパネルや画像、学祖が宗教大学（現大正大学）の本科 3 年生の夏に、50 日にわたって静岡・愛知・岐阜・滋賀・大阪・奈良・三重の各県へ社会事業施設の視察旅行に赴いた足跡を紹介した図、それに学祖の肖像写真や学祖筆の「感恩奉仕」の額などです。また、東日本大震災の際に淑徳大学が行った宮城県石巻市雄勝地区での支援活動を記録した画像も見ることができます。



---

## 「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」のご案内

— 参加者を募集しています —

淑徳大学アーカイブズでは、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を開催しています。現在は当アーカイブズが所蔵している明治から大正期にかけての高瀬真卿の史料を読み進めています。今後は当アーカイブズが所蔵する史料はもとより、江戸時代から近代にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうと思っています。

会は毎月第 2・第 4 金曜日の午前 10 時から午後 3 時頃まで、淑水記念館で開催しています。どなたでも参加できますし、その日の都合に合わせて途中から参加いただくこともできます。初心者の方も大歓迎ですので、くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

## 淑徳大学アーカイブズ日誌（2014年7月～2014年12月）

- 7月3日 淑徳大学池袋エクステンションセンターより公開講座のポスター・刊行物寄贈。
- 7月5日 白旗七夕祭りの写真展にアーカイブズ所蔵写真提供。
- 7月7日 2014年度第1回淑徳大学アーカイブズ運営委員会開催（於大乘淑徳学園本部）。
- 7月11日 第66回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 7月12日 科研2014年度第4回研究会開催。今年度の方針検討（於新宿「らんぶる」）。
- 7月16日 科研2014年度第5回研究会開催。マハヤナ学園所蔵写真整理（於マハヤナ学園）。
- 7月17日 長谷川匡俊理事長の学長時代の資料寄贈。
- 7月17日 全国大学史資料協議会東日本部会第90回研究会参加（於東京外国語大学府中キャンパス）。
- 7月19日 千葉・関東地域社会福祉史研究会第9回（2014年度）研究総会出席（於淑徳大学東京キャンパス）。
- 7月21日 科研2014年度第6回研究会開催。報告書作成作業と打合せ（於墨田区西光寺）。
- 7月22日 学園本部の長谷川進氏来室。大学創立50周年記念展のため大学関係の年表コピー。
- 7月25日 第67回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 7月25日 総合福祉学部結城康博ゼミ1年生学祖展・アーカイブズ展見学。
- 7月25日 福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。
- 7月29日 明治大学史資料センター見学。
- 7月29日 出版文化社と淑徳大学50年史の打合せ。
- 7月30日 淑徳大学長谷川仏教文化研究所より淑徳大学のタイピンとバッジ寄贈。
- 7月30日 今年度の展示準備のため千葉市中央図書館調査。
- 7月31日 千葉第2キャンパスに「学祖コーナー」開設。
- 7月31日 『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第9号発行。
- 8月8日 第68回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 8月8日 科研2014年度第7回研究会開催。マハヤナ学園所蔵資料目録のチェック、写真撮影と事務長への聞き取り調査実施（於マハヤナ学園）。
- 8月9日 科研2014年度第8回研究会開催。報告書作成作業と打合せ（於墨田区西光寺）。
- 8月13日 今年度の展示準備のため千葉市中央図書館・千葉県文書館調査。
- 8月14日 金子保大学50年史編集専門委員資料調査のため来室。
- 8月14日 今年度の展示準備のため千葉市市民局市民自治推進部広報課所蔵写真調査。
- 8月19日 科研2014年度第9回研究会開催。マハヤナ学園事務長への聞き取り調査（於マハヤナ学園）。
- 8月20日 今年度の展示準備のため千葉市立郷土博物館所蔵資料調査。
- 8月22日 第69回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 8月26日 今年度の展示準備のため千葉市立郷土博物館所蔵資料調査。
- 8月28日 科研2014年度第10回研究会開催。マハヤナ学園所蔵写真資料目録の作成と事務担当者への聞き取り調査（於マハヤナ学園）。
- 8月29日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 9月4日 今年度の展示準備のため千葉市立郷土博物館所蔵資料撮影作業。
- 9月4日 沖縄県那覇市の宮城直子氏来室。吉田久一関係資料閲覧。



- 9月6日 今年度の展示準備のため写真所蔵者錦織正二氏訪問。
- 9月8日 今年度の展示のため七福から写真借用。
- 9月12日 今年度の展示のため水野幸一氏から写真借用。
- 9月12日 第70回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 9月12日 今年度の展示のため今井町診療所訪問。
- 9月13日 今年度の展示のため白旗町内会長海老原啓明氏の案内で資料調査実施。アラシ時計店と村杉商店から写真借用。
- 9月16日 学生サポートセンターより山岳部報・硬式野球部報・ゼミ新聞等寄贈。
- 9月18日 白旗町内会長海老原氏・アラシ時計店・村杉商店に借用写真返却。
- 9月19日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会第278回定例研究会参加（於東京大学山上会館）。
- 9月20日 千葉・関東地域社会福祉史研究会2014年度第2回定例研究会出席（於淑徳大学東京キャンパス）。
- 9月22日 今年度の展示のため千葉市立大森小学校から資料借用。
- 9月25日 今年度の展示のため千葉市立生浜小学校から資料借用。
- 9月26日 第71回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 9月26日 今年度の展示のため今井町診療所から資料借用。
- 9月27日 今年度の展示のため千葉市中央図書館で統計関係資料調査。
- 9月29日 今年度の展示のため千葉市立蘇我小学校から資料借用。
- 9月29日 水野幸一氏に借用写真資料を返却。
- 9月30日 七福に借用写真資料を返却。
- 9月30日 今年度の展示のため千葉市立蘇我中学校から資料借用。
- 10月3日 今井町診療所に借用資料を返却。
- 10月3日 千葉市立生浜小学校に借用資料を返却。
- 10月7日 千葉市立蘇我中学校に借用資料を返却。
- 10月7日 千葉市立蘇我小学校に借用資料を返却。
- 10月8日～10日 全国大学史資料協議会2014年度総会・全国研究会参加（於桃山学院・大阪大学）。
- 10月10日 第72回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 10月24日 第73回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 10月24日 福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。
- 10月25日 千葉・関東地域社会福祉史研究会2014年度第3回定例研究会参加（於淑徳大学東京キャンパス）。
- 10月27日 今年度の展示のため関谷政幸氏から資料借用。
- 10月31日 今年度の展示のため千葉市立郷土博物館から資料借用。
- 11月2日 平成26年度淑徳大学アーカイブズ特別展「鶉の森の記憶―大巖寺周辺地域の明治・大正・昭和―」開催（～2015年3月6日）。
- 11月13日～14日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第40回全国（福岡）大会参加（於九州大学箱崎キャンパス）。
- 11月14日 第74回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月15日 地域社会福祉史研究会連絡協議会第14回研究交流会出席（於淑徳大学東京キャンパス）。

- 11月17日 淑徳大学創立50周年記念展に向けて業者と打合せ。
- 11月18日 科研2014年度第11回研究会開催。マハヤナ学園所蔵資料撮影のため今年度撮影分資料の業者への引き渡し（於マハヤナ学園）。
- 11月20日～21日 平成26年度（第19回）佛教図書館協会研修会参加（於名古屋能楽堂・愛知学院大学日進キャンパス）。
- 11月28日 第75回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月28日 児童養護施設マハヤナ学園職員学祖展・アーカイブズ展見学。
- 11月29日 大乘淑徳学園淑陽会々員学祖展・アーカイブズ展見学。
- 11月30日 地方史研究協議会シンポジウム「基礎的自治体の文書館の現状と課題」参加（於松本市駅前会館）。
- 12月2日 淑徳大学創立50周年記念展に向けて業者と打合せ。
- 12月4日 第92回全国大学史資料協議会東日本部会研究会参加（於東京都公文書館）。
- 12月8日 東海大学学園史資料センター見学。
- 12月12日 第76回淑徳大学アーカイブズ資料講読会開催。
- 12月19日 科研2014年度第12回研究会開催。撮影のため業者に渡したマハヤナ学園所蔵資料の受け取り（於マハヤナ学園）。
- 12月19日 福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。
- 12月20日 千葉・関東地域社会福祉史研究会2014年度第4回定例研究会出席（於淑徳大学東京キャンパス）。

淑徳大学アーカイブズでは、大学及び大乘淑徳学園に関係する資料を広く収集しています。

- ①大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ②学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記章・各種書類等。
- ③学生時代に使用していたもの。
- ④大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学

アーカイブズ・ニュース 第10号

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日 2015年1月15日

編集・発行 淑徳大学アーカイブズ  
〒260-8701

千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7526（直通）

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp